

「ウクライナ危機人道支援」緊急募金報告 (5月31日現在)

2月にロシアがウクライナへの軍事進攻を開始してから4か月あまりが経ちます。カリタスジャパンでは、3月より「ウクライナ危機人道支援」緊急募金の受付を開始し、5月末までに140,145,812円が寄せられ、60,832,900円をウクライナ国内と周辺国におけるカリタスの活動の支援金として送金しました。皆様の御協力に心より感謝申し上げます。

ウクライナ国内では、カリタスベスとカリタスウクライナという2つのカリタスネットワークを中心に、各教区カリタスが協力して避難所の開設や移動希望者の送迎、食糧や衛生キットの提供、離れ離れになった家族の再統合など、戦禍にある人々の心と尊厳を守るための活動を続けています。現在では、先述の活動に加えて、専門家による社会心理的サポートも重要な活動となっています。家族や近い人々を亡くすなど、戦争によって痛ましい経験をした人、住む場所を失った人、ロシア軍に占拠された村に住む人など、戦場と隣り合わせで生きる人たちの心を守りサポートすることで、生きる希望を育てています。

また、ポーランド、ハンガリー、スロバキア、ルーマニア、モルドバ、チェコなど、近隣諸国のカリタスでは、スタッフとボランティアが丸となって、ウクライナから逃れてきた何百万もの避難民たちの受け入れと地域社会とのつながりづくり、他国への移動のサポートを続けています。



ドニプロ州で500の食糧キットを配布



専門家による社会心理的サポート活動

援助実績一覧(2022年1月～4月)

援助国/地域	援助活動名	援助団体	援助額(円)	
緊急支援要請	レバノン	レバノンの多分野における緊急支援	カリタスレバノン	1,156,600
	ベナン	ベナン共和国洪水災害への対応	カリタスベナン	1,287,400
	エチオピア	4州における人道的対応と復興支援プロジェクト	カリタスエチオピア	1,299,800
	スーダン	東スーダンのエチオピア難民に対する人道支援	CAFOD	1,320,800
	南スーダン	7教区における、紛争への緊急対応と災害被災者への早期復興支援	カリタス南スーダン	1,148,400
	中央アフリカ	政治的対立が発生した中央アフリカ9教区の被災者のための緊急支援プログラム	カリタス中央アフリカ	1,320,800
	フィリピン	台風オデット(ライ)の被災地における緊急復興支援	カリタスフィリピン	1,299,800
	チリ	チリ北部のベネスエラ人移民への人道支援	カリタスチリ	1,160,600
	ウクライナ	ウクライナでの大規模攻撃に対する緊急対応	カリタスウクライナ	3,850,200
	ウクライナ	ウクライナでの大規模攻撃に対する緊急対応(追加)	カリタスウクライナ	9,513,700
	モルドバ	ウクライナ難民への緊急対応	カリタスモルドバ	2,672,200
	モルドバ	ウクライナ難民への緊急対応(追加)	カリタスモルドバ	4,077,300
	ポーランド	紛争の影響を受けたウクライナ難民への緊急対応	カリタスポーランド	2,638,200
	ポーランド	紛争の影響を受けたウクライナ難民への緊急対応(追加)	カリタスポーランド	4,077,300
	マラウイ	サイクロンアナによる被災者対応	カリタスマラウイ	1,358,400
	バングラデシュ	コックスバザールのミャンマー難民と地域住民への支援活動2022	カリタスバングラデシュ	1,299,100
	ルーマニア	ウクライナ難民への中長期的対応	カリタスルーマニア	6,795,500
チェコ	ウクライナ難民への統合的人道支援	カリタスチェコ	6,795,500	
海外援助(一般)	バングラデシュ	チャッタゴン丘陵地帯における少数民族のための教育プログラム	カリタスバングラデシュ	5,719,029
	ネパール	安全な移住と持続可能な再統合事業	カリタスネパール	5,737,441
	モンゴル	2022年組織強化支援	カリタスモンゴル	1,734,000
	モンゴル	デイケアセンター	カリタスモンゴル	3,468,000
	パキスタン	強制立ち退き被災世帯のための緊急支援プログラム	カリタスカラチ	3,468,000
	キルギスタン	カリタスキルギスタン組織開発支援	カリタスキルギスタン	1,359,100
	キルギスタン	2022年夏期天文学キャンプ支援	カリタスキルギスタン	1,461,032
	南部アフリカ	IDCS 組織開発及び能力強化支援	カリタスアフリカ	2,584,200
新型コロナ緊急支援(国内)	長崎教区	長崎おとな食堂	長崎おとな食堂実行委員会	200,000
	東京教区	ひとり親生活困窮家庭への食支援プロジェクト	フードバンクTAMA	1,700,000
国内援助	さいたま教区	仮放免者生活困窮家庭への食支援プロジェクト	北関東医療相談会	900,000
	東京教区	異文化・多世代間交流を土台にした東日本大震災被災地支援	地球対話ラボ	4,253,820

編集後記

今回の国際カリタスグローバルキャンペーンのメッセージは、ともに暮らす家(地球)と、ともに暮らしている兄弟姉妹を大切にしていきたいというメッセージです。すでに身近なところで、環境問題や貧困問題、他にも様々な困難に直面している人々のために活動しているグループや団体が教会の内外にいます。そんなグループや団体と「Together We」キャンペーンでつながりを持つ機会になればと思います。ともに私たちができることを、身近にできることから始めて、よりよい明日につなげていけることを願っています。



NO.25 2022年夏号
通算発行番号No.331
You can read the text of this newsletter with Google Translation @ <https://www.caritas.jp>



ともに ケアの文化を

今年2月に行われた司教総会にて、菊地功大司教様の後任として、カリタスジャパン担当司教の任命を受けた成井大介と申します。菊地大司教様が27年の長期にわたり支え、導いてきたカリタスジャパンが、これからも時代が必要とする柄柄に福音的な価値観を持って取り組んでいけるよう、微力ながら尽力して参ります。私は2006年から2013年までカリタスジャパン援助部会の秘書を務めた時、本当に多くの方が、思いを込めて、カリタスジャパンを通して愛の行いに取り組んでおられるのを見てきました。この尊い活動に、また皆様とともに参加できることを感謝しています。

これまでカリタスジャパンは、責任司教、担当司教、援助部会秘書、啓発部会秘書と、司教二人、秘書二人の体制で活動を進めて参りましたが、この度司教一人、秘書一人体制となりました。これは、援助部会と啓発部会が、すべての人が大切にされる社会の実現という一つの目標に向かって、一体感を持って取り組んでいくための新たな試みです。今年は委員の皆様にとっても任期の切れる年ですので、多くの方の入れ替わりがありました。これまで委員としてご協力いただいた皆様、新たに委員を引き受けてくださった皆様に感謝いたします。

さて、すでに前号にてお知らせいたしましたが、国際カリタスは新たなグローバルキャンペーン、「Together We(トゥギャザー ウィー)」を昨年末から開始しました。コロナ禍や戦争などによって引き起こされる社会のひずみの中で、特に弱い立場にいる人々や自然環境が影響を受けています。これらの人々や環境が、「あなたたち」ではなく「わたしたち」なのだという意識を持って、互いをケアし、大切にしよう「ケアの文化」を教会共同体として育て、広めて参りたいと思います。皆様のご協力をお願いいたします。

カリタスジャパン担当司教 成井大介

カリタスジャパンの活動へのご支援を今後ともよろしくお願いいたします
カリタスジャパンの活動は皆様の日ごろの募金と「四旬節愛の献金」によって支えられています。募金専用のゆうちょ銀行払込票をご用意しておりますので事務局までご請求ください。

- 募金団体等の代表・担当者個人名で払込の場合は、その「募金団体等の名称」も必ずご記入ください。
- 匿名をご希望の方、払込票の所定の欄に「印」または通信欄に明記ください。
- ご意向について、払込票の所定の欄に「印」または通信欄に明記ください。
- * 記入がない場合は「最優先の援助先」とさせていただきます。
- * 「呼びかけ/受付中の募金」は、カリタスジャパンのホームページにてご案内しております。

【2022年1月1日～4月30日の献金額】	
	(単位:円)
CJ運営寄付	127,618
本年四旬節	9,789,445
国内援助	2,677,711
海外援助	3,668,315
クリスマス募金	3,828,267
マンリーサポーター	3,156,250
スーダン支援	214,054
ウクライナ危機人道支援	114,589,250
新型コロナ募金	4,521,419
合計	142,572,329

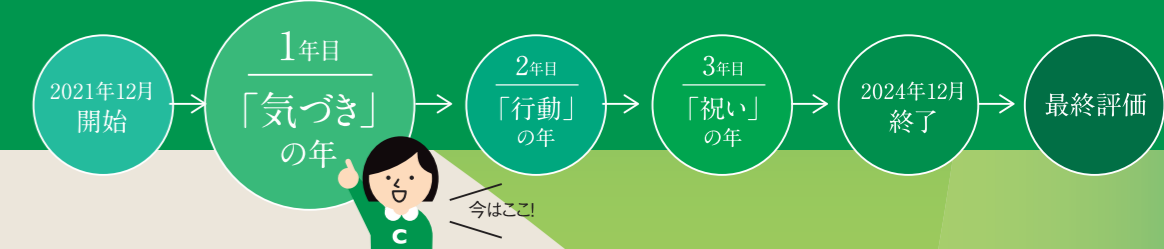
We are Caritas No.25(2022年夏号)

郵便振替番号 00170-5-95979

宗教法人カトリック中央協議会 カリタスジャパン
発行人 成井大介
〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館
TEL:03-5632-4439 FAX:03-5632-4464
Email:info@caritas.jp URL:https://www.caritas.jp

<https://www.facebook.com/caritasjapan>

TOGETHER WE
キャンペーン
特集号



キャンペーンについて



ともに私たちは (トゥギャザー ウィ) **TOGETHER WE** キャンペーン名

より良い明日のために 今日行動しよう **ACT TODAY FOR A BETTER TOMORROW** スローガン

実施期間:2021年12月~2024年12月(予定)

このキャンペーンは教皇フランシスコの回勅『ラウダート・シ』『兄弟の皆さん』などに示された呼びかけに応え

- ともに消費主義が招く「無関心」から抜け出し
- 地球や弱い立場に追いやられた人々の叫びに耳を傾けながら
- 相互配慮をベースとした **ケアの共同体** (愛の実践共同体)を促進し
- ともに **ケアの文化** を構築していきましょうというものです。

ケアの共同体とは?

総合的エコロジーのもと

- ◎貧困への取組み
- ◎排除された人々の尊厳の回復
- ◎自然保護

を実践していくコミュニティのこと

総合的エコロジーとは?

- ◎すべてはつながっている
- ◎環境問題は社会問題であり人間の問題でもある
- ◎自然環境と弱い立場に追いやられた人々には密接なつながりがあるとして

「いのち・環境・平和」を一つのつながりとして捉えること

ケアの文化とは?

今日hibこっている「無関心・使い捨て・対立の文化」に打ち勝ち、「わたしたちがともに暮らす家を大切に、互いに耳を傾け、向き合い、納得し合い、ともに歩むことができる社会を目指す文化」です

国際カリタスは「総合的エコロジー」に関するキャンペーンを開始しました。

誰であれ、どこにいても、すべての「人間の尊厳を守る」ことは、カリタスが70年にわたって取り組んできた社会正義をめぐる教会の教えの出発点となっています。過去半世紀にわたり、世界は力強い経済成長を遂げてきました。しかし、その代償として、気候変動、森林伐採、海洋酸性化、大気・水質汚染などの環境悪化が広がっています。また、最近の新型コロナウイルス感染症の蔓延は、社会的疎外などの分断を生み、移動や自由の制限、雇用や自立の喪失など、多くの人々の尊厳を奪ってきました。これらの環境の変化によって最も被害を受けるのは、弱い立場においやられた人々、最も貧しい人々です。現に、極度の貧困、過疎化、移民など、弱い立場の人々のいのちを脅かし、尊厳を踏みにじる事態を生み出してきました。



このような状況を見過ごすことはできません。

カリタスは「ともに暮らす家(地球)」「ともに生きる兄弟姉妹」の叫びに耳を傾け、そしてその叫び、人々を中心に置いた社会、すべての人の尊厳を守ることができる社会に変えていくために、今回のキャンペーンを展開します。このキャンペーンは、回勅『ラウダート・シ』『兄弟の皆さん』を通して、教皇フランシスコが示された「すべてはつながっている」という総合的エコロジーのもと、相互協力の新たな感覚(ケアの文化)と新しい連帯の形(ケアの共同体)を進めていこうというものです。今、私たちが取り組んでいる活動、そして、これから取り組みたい活動などを通して連帯し、「ともに暮らす家(地球)」「ともに生きる兄弟姉妹」の叫びに耳を傾け、ともに自分のこととして考え、誰もが大切にされる社会を築いていきましょう。



ともにキャンペーンを進めるには?

本紙同封の賛同書ハガキをカリタスジャパンまでお送り下さい。 賛同書は、右のQRコードからも送信可能です。



同封の「賛同書」をカリタスジャパンまでお送り下さい。 賛同書の内容は、教区ごとに集計され、教区キャンペーンチームと情報を共有します。

ともに知ろう

- カリタスジャパンのウェブサイトを確認する
- 回勅『ラウダート・シ』を読む
- 回勅『兄弟の皆さん』を読む

ともに広めよう

- 身近な人にキャンペーンについて知っているか聞き、未だ知らない人にステップ1を勧める
- キャンペーンを知っている人を増やす

ともに分かち合おう

- キャンペーンについて、感じたことなどを分かち合う
- 感想や分かち合いの中で出た意見をカリタスジャパン事務局に送る



同封の「賛同書」をカリタスジャパンまでお送りください。 今行っている小教区内やグループでの活動(総合的エコロジーのもと、取り組んでいる活動)をご紹介下さい。

ともに知ろう

- カリタスジャパンのウェブサイトを確認する
- 回勅『ラウダート・シ』を読む
- 回勅『兄弟の皆さん』を読む

ともに分かち合おう

- ステップ1の感想、意見を分かち合う
- 自分たちの今取り組んでいる活動をキャンペーンの視点で振り返る
- 何ができるかを考える

ともに考えよう

- 自分たちの活動の主体の人々、兄弟姉妹とどのようにしたらつながるか考える
- 勉強会、分かち合い、祈りの会などを企画する

例えば ◎炊き出しや食堂活動、難民・日本に定住する外国人への支援、被災者・被害者支援、生活困窮者支援、孤独・孤立防止対策など様々な支援活動、居場所づくり、つながりを生む活動、交流

◎地球保護、地産地消、地域連携、被造物の保護、食品ロス削減などの推進活動

◎回勅を読む、平和のために祈る、勉強会、野外ミサ、ウォークソンなどの集まりの実施

また、これから行いたいと思っている活動がありましたら、お聞かせ下さい。カリタスジャパン、教区キャンペーンチームでは、皆さんの声を集めながら、情報の提供や行事開催などを通して、より多くの人々がケアの文化を知り、ケアのコミュニティが広がっていくように努めていますので、ご協力をお願いします。



回勅『ラウダート・シ』『兄弟の皆さん』を読まれた皆様へ

回勅の中でもっとも印象に残った文章または共感を得た文章(番号)を、賛同書ハガキまたは賛同書フォームにて、カリタスジャパンまでお寄せ下さい。寄せられた文章は、キャンペーン活動の一環として、本年9月の「すべてのいのちを守る月間」のための作成資料の参考にさせていただきます。御協力をお願い致します。

TOGETHER WE(トゥギャザー ウィ) キャンペーンページ(ウェブサイト)はこちらから:

URL:
<https://www.caritas.jp/2022/06/23/5429/>

他国でのキャンペーンの取り組み

カリタスカナダの取り組み

世界ではしばしば、法的整備が弱い途上国の資源を、先進国の企業が買い占める事象が起きています。南米ホンジュラスでは、カナダ企業による原生林の伐採に伴い、そこに暮らしていた原住民が追い出されています。現地政府は企業からの見返りのためにそれを黙認し、森林の所有を訴えた住民代表のヴィクトル・ヴァスケスさんを不当に逮捕しました。それを受け、カリタスカナダは、森林伐採と不当逮捕に反対する署名活動(キャンペーン)を開始しました。

その動きはカナダ国内の学校にも伝わり、これまでに700人に及ぶ子どもたちも署名に協力しています。これらの活動が功を奏して、ヴィクトルさんは釈放されました。現在、まだ裁判は続いています。カナダの国会議員も動き出しています。釈放時、ヴィクトルさんは、誰も(自分たちの土地から)不当な理由で追い出されてはならないことを訴え、「刑務所にいる間、私は孤独ではなく、むしろ力強く感じていました。何故なら、国内外にいる全ての兄弟姉妹の温かさや支援があったからです」と語りました。

CAFODの取り組み

CAFOD(Catholic Agency for Overseas Development)は英国のイングランドとウェールズで活動するカリタスです。CAFODでは、回勅『ラウダート・シ』による教皇の呼びかけに応える機会としてカトリックの小教区、学校、修道会などに「LiveSimplyコミュニティ」(質素に、持続可能に、貧しい人々や被造物と連帯して生きるコミュニティ)の認定を促す取り組みを行っています。認定を受けるには、グループがすでに実践しているリサイクル、フェアトレードやフードバンクへの支援、難民の受入れなどの実質的な行動(重要な変化または多くの人々を含む何か)の1つと、「質素に生きる(個人の変革)」「連帯して生きる(人間家族への配慮)」「持続可能な生活(被造物への配慮)」の3つの項目の中から2つを、信仰に基づく行動の証として実施し、CAFODに評価を依頼します。現時点で、18教区において100以上の小教区、学校、修道会がLiveSimplyコミュニティとして認定されています。LiveSimplyコミュニティを増やすことは、ケアのコミュニティを増やしていくことであり、新しい連帯のもとに、すべての人が大切にされる社会を目指すという表れでもあります。

写真:聖アウグスティヌス教区の「LiveSimplyコミュニティ」認定証(木製) 月例集会などで、コミュニティでできるアイデアを共有し、生態学的回心をもたらした学習会、ホームレスへの継続的な支援などにより認定された。 <http://www.staugustinesbristol.co.uk/>より

